

# カルコン教育タスクフォース報告書概要

## 教育交流の意義及びポイント

- ◆ アジア・太平洋地域の平和と繁栄の礎である日米同盟は、両国間の政治家、学者、ジャーナリスト、市民等の絆によって支えられてきた。留学生交流は、将来の強固な日米関係の構築に寄与する教育・文化交流の中核。
- ◆ 日米の留学生交流を強化することにより、価値観を共有する日米両国がグローバルな課題に共に取り組むための人材育成や両国の競争力強化にも寄与する。

## タスクフォースの主な提言

目標：「2020年までに日米双方の留学生交流数を倍増」  
(日本→米国：4万人、 米国→日本：1万2千人)

## 現状

- ◆ 日本→米国の留学生数の急激な減少 (47,073人(1997年)→19,966人(2011年))
- ◆ 米国→日本の留学生数の低迷 (2,018人(1997年)→6,166人(2010年)→4,134人(2011年))

## 日本側の対策

英語教育の抜本的強化  
(コミュニケーション能力の向上、JETの拡充等)

大学の国際化の促進  
(英語によるコースの増加、学事暦の弾力化や教養教育の充実等)

就職活動開始時期の見直しや採用時における留学経験の評価

民間による留学奨学金の拡充

国際バカロレア・プログラムの拡大

## 日米両国の対策

教育交流分野での政府間戦略的対話の実施

政府による留学奨学金の拡充

留学生受入れのための大学のインフラ整備

留学プログラムや奨学金に関する情報の提供

早期異文化体験、日本語や英語学習、日米研究、及び知的交流の促進

日米の大学・大学関係団体間の連携協力促進

留学生の同窓会活動に対する支援

## 米側の対策

留学情報の提供、  
査証取得手続きの明確化等

正規課程への受入れのための英語プログラム等の準備コースの実施促進

米企業の日本支社における採用プロセス改革

インターンシップや「トモダチ」イニシアティブ等、民間による日米交流プログラムへの支援の強化

逆JETプログラムの強化